［短報］

沖縄近海に設置されたパヤオに付着したハナヤサイサンゴ類に共生するサンゴガニ属（甲殻亜門：十脚目：短尾下目）の記録

東地拓生[1]・山本広美[1]・Peter Castro[2]・駒井智幸[3]

Records of species of *Trapezia* (Crustacea: Decapoda: Brachyura: Trapeziidae) associated with pocilloporid corals attached to floating fish rafts (payao) off Okinawa, Ryukyu Islands

Takuo HIGASHIJI[1], Hiromi YAMAMOTO[1], Peter CASTRO[2] and Tomoyuki KOMAI[3]

Abstract. A collection of coral-symbiont crabs of the genus *Trapezia* obtained from floating fish rafts (payao), off Okinawa, Ryukyu Islands, was studied. Nine species were identified: *T. digitalis*, *T. flavopunctata*, *T. formosa*, *T. garthi*, *T. intermedia*, *T. lutea*, *T. rufopunctata*, *T. septata* and *T. serenei*. *Trapezia intermedia* is recorded from Japanese waters for the first time.

はじめに

サンゴガニ属 *Trapezia* Latreille, 1828には，現在22種が知られ（Ng et al., 2008; Castro, 2011），いずれもハナヤサイサンゴ類などのイシサンゴ類に共生することが知られている．形態的に類似した種が多く，種同定には大きな混乱があったが，近年の分類学的再検討（Castro, 1996; 1997a; 1997b; 1998; 1999; Castro et al., 2004; Castro, 2011）によりかなり整理された．日本沿岸からは以下の12種の出現が確認されている（Sakai, 1976; 三宅，1983; 永井・野村，1988; 武田，1994; Castro, 1997a; 1997b; 1999; 峯水，2000; 加藤・奥野，2001）: *T. digitalis* Latreille, 1828（クロサンゴガニ），*T. cymodoce*（Herbst, 1801）（サンゴガニ），*T. bidentata*（Forskål, 1775）（カバイロサンゴガニ），*T. flavopunctata* Eydoux and Souleyet, 1842（アラメサンゴガニ），*T. formosa* Smith, 1869（スミスサンゴガニ），*T. garthi* Galil, 1983（アミメサンゴガニモドキ），*T. guttata* Rüppell, 1830（カノコサンゴガニあるいはアカエリサンゴガニ），*T. lutea* Castro, 1997（カストロサンゴガニ），*T. rufopunctata*（Herbst, 1799）（オオアカホシサンゴガニ），*T. septata* Dana, 1852（アミメサンゴガニ），*T. serenei* Odinetz, 1983（セレン

[1] 〒905-0206 沖縄県国頭郡本部町字石川888　一般財団法人沖縄美ら島財団
Okinawa Churashima Foundation, 888 Ishikawa, Motobu-cho, Okinawa, 905-0206, Japan.
[2] Biological Sciences Department, California State Polytechnic University, Pomona, California 91768-4032, USA.
[3] 〒260-8682 千葉県千葉市中央区青葉町955-2　千葉県立中央博物館資料管理研究科
Natural History Museum and Institute, Chiba, 955-2 Aoba-cho, Chuo-ku, Chiba, 260-8682, Japan.

サンゴガニ），*T. tigrina* Eydoux & Souleyet, 1842（アカホシサンゴガニ）．

沖縄近海には表層浮漁礁（以後，パヤオ）が複数設置され，集まった魚類を漁獲している．これらのうち，平成10年から平成12年に設置された４地点（沖縄島勝連沖北緯26°09′53"，東経128°09′63"；伊平屋島沖北緯27°10′00"，東経127°34′30"；沖縄島宜野座沖北緯26°31′00"，東経128°25′75"；伊江島沖北緯26°49′00"，東経127°26′50"）のパヤオが2008年及び2009年に回収・陸揚げされた（図１A）．パヤオには多くの造礁性イシサンゴ類が付着しており（図１B），沖縄美ら海水族館では，パヤオに付着しているサンゴの群集調査，及びサンゴに共生しているサンゴガニ類の調査を行った．その結果，日本未記録種１種を含む９種のサンゴガニ属カニ類が記録されたので報告する．

方　法

パヤオの鉄筋上にランダムに方形枠（1 m×1 m）を設置し，その中に出現するサンゴを属レベルで同定した．サンゴガニ類の調査では方形枠を用いず，目視により確認された個体を無作為に採取した．採取時には，瀕死もしくは死亡した状態であったが，色彩がはっきりと残っていたため，写真撮影後，エタノール70%で液浸標本とした．標本の大きさは，甲長×甲幅（mm）で表した．検討標本は，沖縄美ら海水族館（OCA）と千葉県立中央博物館（CBM）に所蔵されている．

結　果

サンゴの群集調査を行ったところ，出現した属のうち，99.9%がハナヤサイサンゴ属 *Pocillopora* であった．また，サンゴの間隙からは，サンゴガニ属カニ類９種，合計95個体を採取した．

その他，少なくとも８科17種の十脚甲殻類の標本が採取されたが，これらについては別途報告したいと考えている．

サンゴガニ科 Trapeziidae Miers, 1886
サンゴガニ属 *Trapezia* Latreille, 1828

1．アミメサンゴガニモドキ
Trapezia garthi Galil, 1983
（図２A）

検討標本．沖縄島宜野座沖，2009年４月23日，4♂♂(5.5×6.2〜8.1×9.6 mm)，3♀♀（7.3×8.9〜8.7×11.1 mm)，OCA-Cr 20090423-2；同データ，1♂（6.9×8.3 mm)，1抱卵♀（7.9×9.9 mm)，1幼若♀（2.9×3.6 mm)，CBM-ZC 9662; 沖縄島勝連沖，2009年４月29日，2♂♂（6.5×7.4, 8.5×10.0 mm)，CBM-ZC 9661．

分布．西太平洋に広く分布（Castro et al.,

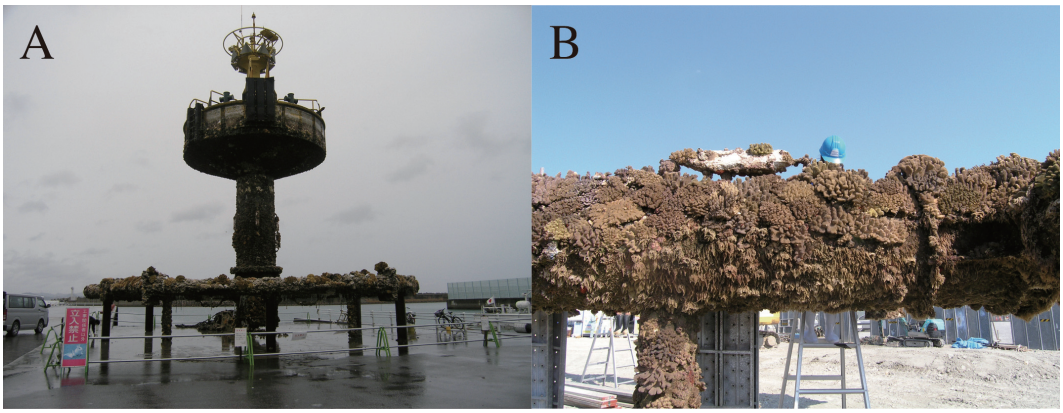

図１．A，陸揚げされたパヤオ；B，パヤオの鉄筋上を覆うイシサンゴ類．
Fig. 1. A, payao landed at port; B, corals covering on the metal frame of the payao.

2004）．タイプ産地は台湾（Galil, 1983）．日本国内では琉球諸島から記録がある（Sakai, 1976; Castro, 1999）．

備考． Sakai（1976）が *Trapezia* sp.（アミメサンゴガニモドキ）として報告した標本が本種に該当する（Castro, 1999）．

2．オオアカホシサンゴガニ
Trapezia rufopunctata（Herbst, 1799）
（図2B）

検討標本． 伊江島沖，2008年4月28日，5♂♂（9.4×10.6〜19.5×21.5 mm），7♀♀（9.0×10.6〜18.3×20.8 mm），OCA-Cr 20080428-1．

分布． インド西太平洋〜ハワイにかけて広く分布（Castro et al., 2004）．タイプ産地はシンガポール（Castro et al., 2004）．日本国内では，琉球諸島と伊豆諸島南部〜小笠原諸島から記録がある（Sakai, 1976; 永井・野村，1988; 加藤・奥野，2001; Komatsu, 2011）．

3．アミメサンゴガニ
Trapezia septata Dana, 1852
（図2C）

検討標本． 伊平屋島沖，2009年4月17日，5♂♂（8.3×9.7〜13.0×15.1 mm），5♀♀（6.5×7.7〜13.2×16.4 mm），OCA-Cr 20090417-1；伊江島沖，2008年4月28日，2♂♂（7.2×8.4, 8.2×9.8 mm），4♀♀（8.9×11.2〜10.4×12.5 mm），OCA-Cr 20080428-2．

分布． インド洋東部，西太平洋〜中央太平洋（Castro et al., 2004）．タイプ産地はフィリピンのルソン島（Dana, 1852）．日本国内では紀伊半島〜琉球諸島，伊豆諸島〜小笠原諸島から記録がある（Sakai, 1976; Galil and Lewinsohn, 1985; Castro, 1997a; Komatsu, 2011）．

備考． 日本からの *Trapezia areolata* Dana, 1852の記録（Sakai, 1976; 三宅，1983; 武田，1994など）は，本種に該当するものと考えられる（Castro, 1997a）．

4．セレンサンゴガニ
Trapezia serenei（Odinetz, 1983）
（図2D）

検討標本． 伊江島沖，2008年4月28日，3♂♂（3.6×4.7〜9.5×10.8 mm），2♀♀（7.4×8.7, 8.0×9.0 mm），OCA-Cr 20080428-3．

分布． 西太平洋に広く分布（Castro et al., 2004）．タイプ産地はグアム（Odinetz, 1983）．日本国内では沖縄から記録がある（永井・野村，1988; Castro 1997a）．

備考． 本種は，カバイロサンゴガニ *Trapezia bidentata*（Forskål, 1775）に類似するが，歩脚の前節に暗色の斑点を欠くことで識別できる．

色彩の情報を伴ったカバイロサンゴガニに関する文献を簡単に検討したところ，酒井（1976），永井・野村（1988），峯水（2000）により，カバイロサンゴガニ（*Trapezia ferruginea*）として図示された標本は，歩脚の指節に暗色の斑点を欠き，この点から判断すると，本種に該当すると考えられる．これまでの文献による本邦海域からの報告にカバイロサンゴガニ *T. bidentata* が含まれていたかどうかを確認するためには既報の標本の再検討が必要であるが，本論文の目的を超えるものであり，今後の課題である．

Castro et al.（2004）は，本学名の公表の日付をOdinetz（1983）に帰するよう提唱したが，その後の文献においても，混乱がみられる．例えば，Ng and Richer de Forges（2007）やNg et al.（2008）はOdinetz（1984）に帰している．Odinetz（1983）は，パリ大学に提出された学位論文であり，一方，Odinetz（1984）はパリ国立自然史博物館の刊行する学術誌に掲載された論文である．Odinetz（1983）が学名の公表の要件を満たすという根拠についてはCastro et al.（2004）によって論じられているが，論文のサーキュレーションという観点からは学術誌に掲載された論文をもって学名の公表とみなされるのが通常であり，Odinetz（1983）が公表の要件を満たすかどうかの解釈の違いが混乱の原因となっているものと推測される．本論文では，Castro et al.（2004）の解釈に従い，本種名の公表をOdinetz（1983）に帰する．

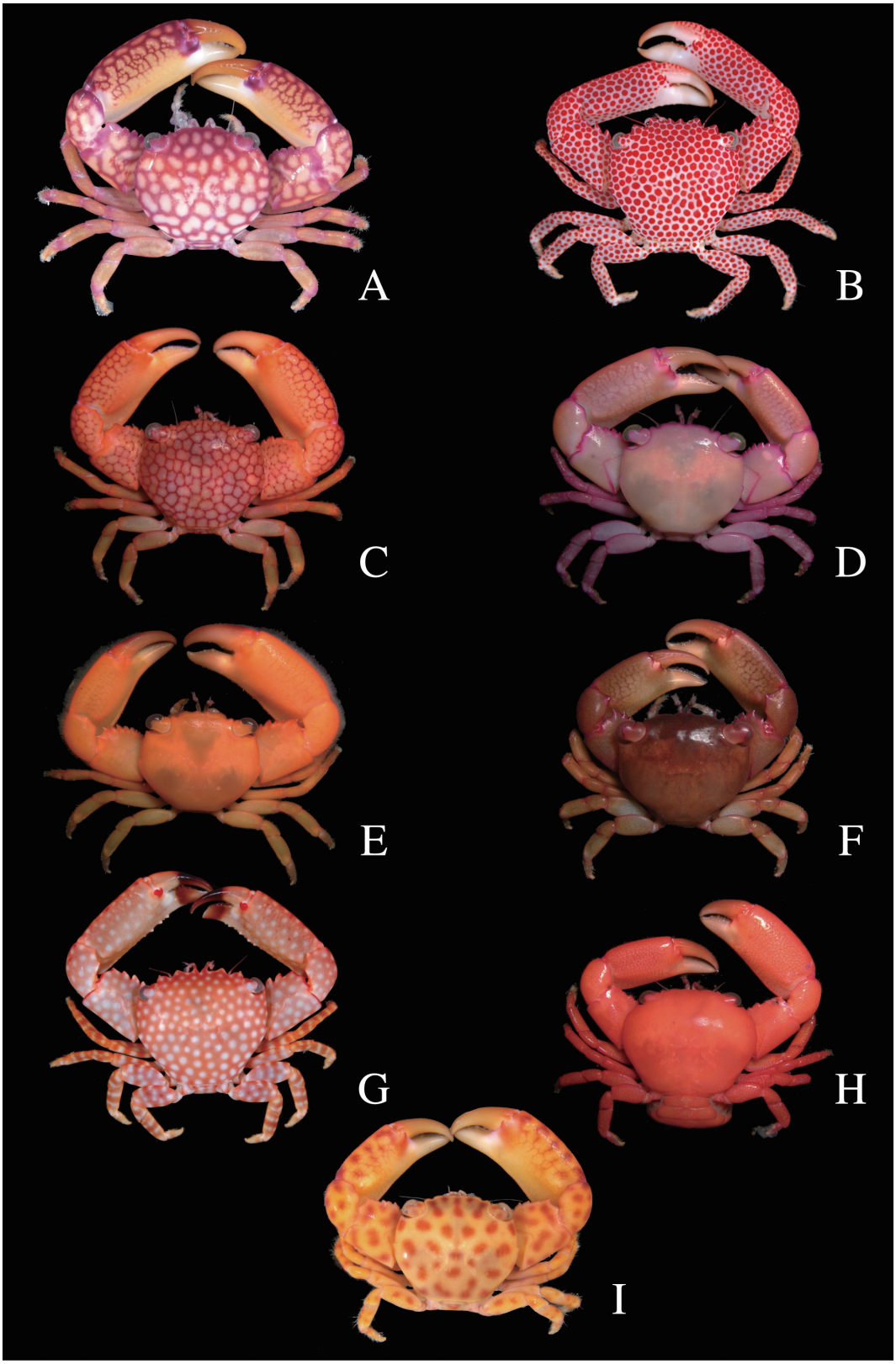
A
B
C
D
E
F
G
H
I

図 2．パヤオに付着したイシサンゴ類より得られたサンゴガニ属カニ類； A, *Trapezia garthi* Galil, 1983 アミメサンゴガニモドキ，♂（保存されていない）; B, *Trapezia rufopunctata*（Herbst, 1799）オオアカホシサンゴガニ，♂（19.5×21.5 mm; OCA-Cr 20080428-1）; C, *Trapezia septata* Dana, 1852 アミメサンゴガニ，♂（10.1×11.5 mm; OCA-Cr 20090417-1）; D, *Trapezia serenei* Odinetz, 1983 セレンサンゴガニ，♂（9.5×10.8 mm; OCA-Cr 20080428-3）; E, *Trapezia lutea* Castro, 1997 カストロサンゴガニ，♂（保存されていない）; F, *Trapezia digitalis* Latreille, 1828 クロサンゴガニ，♂（6.8×8.1 mm; OCA-Cr 20080428-4）; G, *Trapezia flavopunctata* Eydoux and Souleyet, 1842 アラメサンゴガニ，♂（22.0×25.6 mm; OCA-Cr 20090423-1）; H, *Trapezia formosa* Smith, 1869 スミスサンゴガニ，♀（9.9×13.5 mm; CBM-ZC 9660）; I, *Trapezia intermedia* Miers, 1886 アカモンサンゴガニ（新称），♂（9.0×10.5 mm; OCA-Cr 20090423-3）.

Fig. 2. *Trapezia* crabs obtained from corals attached to payao. A, *Trapezia garthi* Galil, 1983, ♂ (specimen not preserved); B, *Trapezia rufopunctata* (Herbst, 1799), ♂ (19.5×21.5 mm; OCA-Cr 20080428-1); C, *Trapezia septata* Dana, 1852, ♂ (10.1×11.5 mm; OCA-Cr 20090417-1); D, *Trapezia serenei* Odinetz, 1983, ♂ (9.5×10.8 mm; OCA-Cr 20080428-3); E, *Trapezia lutea* Castro, 1997, ♂ (specimen not preserved); F, *Trapezia digitalis* Latreille, 1828, ♂ (6.8×8.1 mm; OCA-Cr 20080428-4); G, *Trapezia flavopunctata* Eydoux and Souleyet, 1842, ♂ (22.0×25.6 mm; OCA-Cr 20090423-1); H, *Trapezia formosa* Smith, 1869, ♀ (9.9×13.5 mm; CBM-ZC 9660); I, *Trapezia intermedia* Miers, 1886, ♂ (9.0×10.5 mm; OCA-Cr 20090423-3).

本種の和名であるが，酒井（2003）により "グアムサンゴガニ" という和名が提唱されているが，標本に基づいた命名ではないこと，グアムに限定的に分布するわけではないことなどを考慮し，標本に基づいた丸村・小坂（2003）による和名を採用した．

5．カストロサンゴガニ
Trapezia lutea Castro, 1997
（図2E）

検討標本． 沖縄県宜野座沖，2009年4月23日，7♂♂（5.7×7.3〜12.7×14.9 mm），7♀♀(7.0×8.5〜13.4×17.2 mm)，OCA-Cr 20090423-4; 伊江島沖，2008年4月28日，4♂♂(8.0×9.1〜11.0×11.5 mm)，2♀♀(7.1×8.7 mm, 8.3×10.7 mm)，OCA-Cr 20080428-5.

分布． インド・西太平洋に広く分布（Castro et al., 2004）．タイプ産地はニューカレドニア（Castro, 1997a）．日本国内では琉球諸島から記録がある（永井・野村，1988; 武田，1994; Castro, 1997a）．

備考．永井・野村（1988）や武田（1994）が *Trapezia cymodoce*（サンゴガニ）として報告した標本の少なくとも一部が本種に該当すると考えられる（Castro, 1997a）．

6．クロサンゴガニ
Trapezia digitalis Latreille, 1828
（図2F）

検討標本． 伊江島沖，2008年4月28日，1♂（6.8×8.1 mm），1♀（7.8×9.5 mm），OCA-Cr 20080428-4；伊平屋島沖，2009年4月17日，3♂♂（6.2×7.3〜9.6×11.3 mm），7♀♀(8.2×10.0〜10.7×13.2 mm)，OCA-Cr 20090417-2; 沖縄島勝連沖，2009年4月29日，1抱卵♀（11.5×15.1 mm），CBM-ZC 9659.

分布． インド西太平洋〜東太平洋に広く分布（Castro et al., 2004）．タイプ産地は紅海（Latreille, 1828）．日本国内では伊豆諸島〜小笠原諸島，および土佐湾〜琉球諸島から記録がある（Sakai, 1976 ; Castro et al., 2004; Komatsu, 2011）．

7．アラメサンゴガニ
Trapezia flavopunctata Eydoux and Souleyet, 1842
（図2G）

検討標本． 沖縄島宜野座沖，2009年4月23日，4♂♂（13.8×16.0〜22.0×25.6 mm），2♀♀(18.2×21.6, 20.2×24.2 mm)，OCA-Cr 20090423-1.

分布． 西太平洋〜中央太平洋（Castro et al., 2004）．タイプ産地はハワイ諸島（Eydoux and

Souleyet, 1842）．日本国内では琉球諸島および小笠原諸島から記録がある（Sakai, 1976; Castro et al., 2004; Komatsu, 2011）．

備考．武田（1975）は，本種の和名として新称 "シロホシサンゴガニ" を提唱したが，その後，三宅（1983）の採用した "アラメサンゴガニ" が和名として定着したものと判断されるので，本論文でも後者を採用した．

8．スミスサンゴガニ
Trapezia formosa Smith, 1869
（図2H）

検討標本．沖縄島勝連沖，2009年4月29日，1抱卵♀（5.2×6.4 mm），OCA-Cr 20090429-1; 沖縄島勝連沖，2009年4月29日，2♂♂(6.5×7.4, 8.5×10.0 mm)，1抱卵♀（5.2×6.4 mm），CBM-ZC 9658; 伊江島西沖，2008年4月28日，1抱卵♀（9.9×13.5 mm），CBM-ZC 9660．

分布．インド西太平洋から東太平洋にかけて広く分布（Castro et al., 2004）．タイプ産地はパナマの太平洋沿岸（Smith, 1869）．日本国内では紀伊半島潮岬と与論島から記録がある（Castro, 1998）．

9．アカモンサンゴガニ（新称）
Trapezia intermedia Miers, 1886
（図2I，図3）

検討標本．沖縄島宜野座沖，2009年4月23日，4♂♂（9.0×10.5〜11.0×12.4 mm），1幼若♀（4.5×5.1 mm），OCA-Cr 20090423-3; 沖縄島勝連沖，29°09.8′N，128°09.5′E，2009年4月29日，2♂♂（7.2×8.5，11.3×13.4 mm），CBM-ZC 11361．

形態的特徴．頭胸甲（図2I，3A）は滑らかで光沢があり無毛，甲背面はわずかに凸面を形成する．前側縁はわずかに湾曲し，側縁棘は鋭く尖るかあるいは鈍く，前方を向く．眼窩外角は鈍く突出する．眼窩下縁内歯は，やや尖る．

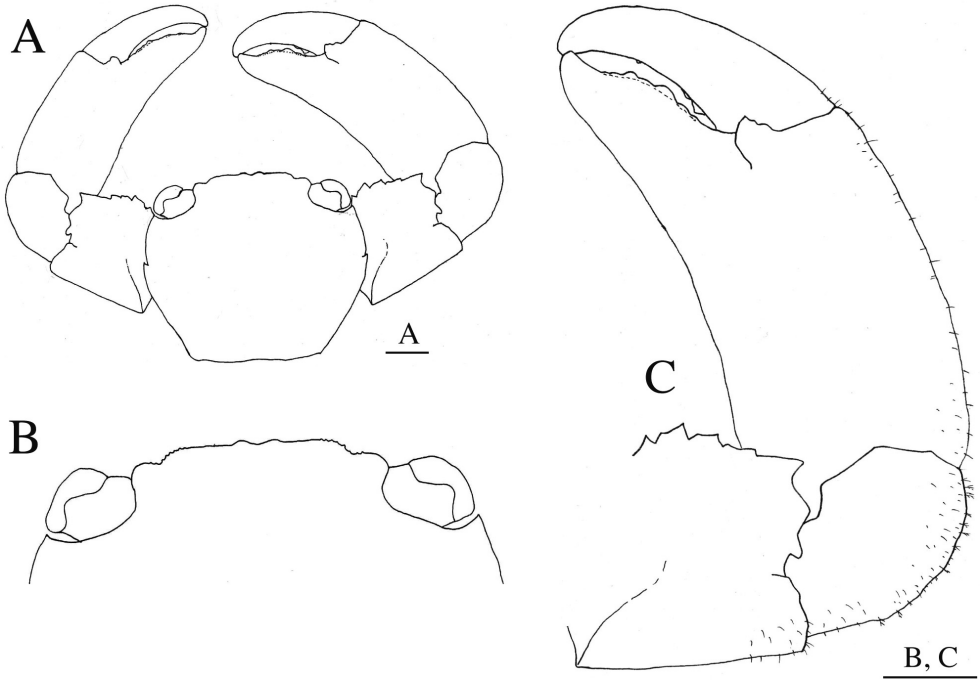

図3．*Trapezia intermedia* Miers, 1886　アカモンサンゴガニ（新称），♂（9.0×10.5 mm），OCA-Cr 20090423-3. A. 頭胸甲および鉗脚; B, 頭胸甲額縁; C, 右鉗脚. スケールバー: 2 mm.

Fig. 3. *Trapezia intermedia* Miers, 1886, ♂（9.0×10.5mm），OCA-Cr20090423-3. A, carapace and chelipeds, dorsal view; B, frontal margin of carapace; C, right cheliped, dorsal view. Scale bar 2 mm.

額（図3B）は幅が広く，ゆるやかに湾曲し，4つの鈍い葉に区分され，外側の葉にはさらに微小な歯が並ぶ．眼窩上縁内突起は明瞭で，丸みを帯びる．第2／第3胸板間の縫合線は痕跡的．

鉗脚（図2I，3A）は大きく，頑丈で，左右わずかに不同．長節前縁には幅の広い三角形の歯を有する．腕節には明瞭な歯はない．長節の外縁，腕節外面，鉗掌部外面の上半分は短い軟毛とまばらな羽状剛毛によって覆われる（図3C）．掌部の上面は丸みを帯びるが，下縁は明瞭な隆起を形成する．不動指はわずかに下垂する．不動指と指節の咬合縁は，大鉗側においては小さな歯が並ぶが，小鉗側では鋭いエッジを形成する．

歩脚の長節はやや偏圧され，その上縁は鋭くはないが，明瞭な隆起縁を形成する．腕節から指節にかけての外縁にはまばらな剛毛がある．前節の外縁は弱い隆起を形成する．

色彩（図2I）．生時は甲がオレンジ色で，比較的大きな赤〜赤褐色の斑紋がある．斑紋の数は，成長した個体で一般的に24〜26個である．鉗脚掌部の背面には大きな赤茶色の斑紋が入り，中・下部には赤色の不規則な網目模様が入る．指部は茶色となる．歩脚には鉗脚と同様か，やや小さな斑点模様がある．

分布．西太平洋〜ハワイにかけて分布する（Castro et al., 2004; Castro, 2011）．タイプ産地はハワイ諸島（Miers, 1886）．本種の日本国内からの記録はこれまでにはなく，本標本によりその分布が初めて確認された．

備考．Castro（2011）により，*Trapezia neglecta* Castro, 2003は*Trapezia intermedia* Miers, 1886の下位シノニムであることが明らかにされた．本標本はCastro（2003）による*T. neglecta*の原記載に形態・色彩ともによく一致する．

本種は頭胸甲背面および胸脚に赤い斑点が散在する点で，*T. rufopunctata*（オオアカホシサンゴガニ）および*T. tigrina*（アカホシサンゴガニ）に類似する．しかし，後2種においては，本種よりも，斑紋がより小さく，数も明らかに多い（図2B参照）．さらに，頭胸甲背面の色が本種では暗いオレンジ色であるのに対し，後2種では明るいオレンジ色かクリーム色である．また，オオアカホシサンゴガニとアカホシサンゴガニのいずれにおいても鉗脚外面の短軟毛は存在しない．オオアカホシサンゴガニは，頭胸甲額縁の葉が明瞭な三角形をなすことや，鉗脚掌部下縁に明瞭な歯状の突起列があることなどの点で，アカモンサンゴガニとアカホシサンゴガニの両種から識別される．

謝　辞

本稿を執筆するにあたり，論文として出すようご助言くださった沖縄美ら島財団参与の西平守孝博士，投稿する機会を与えていただいた美ら島研究センターの戸田実課長，沖縄美ら海水族館・宮原弘和館長および野中正法課長，調査の機会を提供していただいた沖縄農林水産部漁港漁場課，標本の採取及びサンゴのデータ解析にご協力いただいた西海区水産研究所亜熱帯研究センターの甲斐清香氏，セレンサンゴガニの学名の公表年についてアドバイスをいただいたシンガポール国立大学Peter K. L. Ng教授に厚くお礼申し上げます．

引用文献

Castro, P., 1996. Eastern Pacific species of *Trapezia* (Crustacea, Brachyura: Trapeziidae), sibling species symbiotic with reef corals. Bulletin of Marine Science 58: 531-554.

Castro, P., 1997a. Trapeziid crabs (Brachyura: Xanthoidea: Trapeziidae) of New Caledonia, eastern Australia, and the Coral Sea. Études et Thèses, ORSTOM (3): 59-107.

Castro, P., 1997b. Trapeziid crabs (Brachyura: Xanthoidea: Trapeziidae) of French Polynesia. Études et Thèses, ORSTOM (3): 109-139.

Castro, P., 1998. Systematic status and geographic distribution of *Trapezia formosa* Smith, 1869 (Crustacea, Brachyura,

Trapeziidae), a symbiont of reef corals. Zoosystema 20: 177-181.

Castro, P., 1999. The Trapeziidae (Crustacea : Brachyura: Xanthoidea) of Indonesia. Results of the Rumphius Biohistorical Expedition to Ambon (1990), Part 7. Zoologische Mededelingen 73: 27-61.

Castro, P., 2003. The trapeziid crabs (Brachyura) of Guam and Northern Mariana Islands, with the description of a new species of *Trapezia* Latreille, 1828. Micronesica, 35/36: 440-455.

Castro, P., 2011. Catalog of the anomuran and brachyuran crabs (Crustacea: Decapoda: Anomura, Brachyura) of the Hawaiian Islands. Zootaxa (2947): 1-154.

Castro, P., P. K. L. Ng and S. T. Ahyong, 2004. Phylogeny and systematics of the Trapeziidae Miers, 1886 (Crustacea: Brachyura), with the description of a new family. Zootaxa (643): 1-70.

Dana, J. D. 1852. Crustacea, Part I. United States Exploring Expedition, during the Years 1838, 1839, 1840, 1841, 1842, under the Command of Charles Wilkes, U.S.N., Vol. 13. C. Sherman, Philadelphia.

Eydoux, F. and F. A. Souleyet, 1848. Crustacés. "Voyage autour du monde exécuté pendant les années 1836 et 1837 sur la corvette La Bonite, commandée par M. Vaillant, Zoologie 1", Arthus Bertrand, Paris, 107-328, atlas, 150 pls.

Galil, B. 1983. Two new species of *Trapezia* (Decapoda: Brachyura), coral-inhabiting crabs from Taiwan. Micronesia 19: 123-129.

Galil, B. and C. Lewinsohn, 1985. On the taxonomic status of *Trapezia* areolata Dana and *Trapezia septata* Dana (Decapoda, Brachyura), Crustaceana 48: 286-293.

加藤昌一・奥野淳兒，2001. エビ・カニガイドブック．伊豆諸島・八丈島の海から．TBSブリタニカ，東京．

Komatsu, H., 2011. Crabs dredged off the Ogasawara Islands (Crustacea, Decapoda, Brachyura). Memoirs of the National Museum of Nature and Science, Tokyo (47): 219-277.

丸村眞弘・小坂晃，2003. 永井誠二コレクション　カニ類標本目録．和歌山県立自然博物館，海南市．

Miers, E. J., 1886. Report on the Branchyura collected by H.M.S. Challenger during the years 1873-76. Report on the Scientific Results of the Voyage of H.M.S Challenger during the Years 1873-76, Zoology 17 : 1-362, 29 pls.

Latreille, P. A., 1828. Trapézie. "Entomologie, ou Histoire Naturelles des Crustacés, des Arachnids et des Insectes, Encyclopédie Méthodique, Histoire Naturelle, 10", Paris, 695-696.

Ng, P. K. L., D. Guinot and P. Davie, 2008. Systema Brachyurorum, Part I. An annotated checklist of extant brachyuran crabs of the world. Raffles Bulletin of Zoology, Supplement No. 17: 1-286.

Ng, P. K. L. and B. Richer de Forges, 2007. The Brachyura of New Caledonia. Compendium of Marine Species of New Caledonia. Documents Scientifiques et Techniques, II7, second edition, C. E. Payri and B. Richer de Forges (eds.) IRD, Nouméa, 315-331.

峯水亮，2000. ネイチャーガイド 海の甲殻類．文一総合出版，東京．

三宅貞祥，1983. 原色日本大型甲殻類図鑑（II）．保育社，大阪．

永井誠二・野村恵一，1988. 沖縄海中生物図鑑甲殻類（カニ）．新星図鑑シリーズ第7巻．新星図書出版，浦添市．

Odinetz, O., 1983. Ecologie et structure des peuplements de Crustacés Décapodes associés aux coraux du genre *Pocillopora* en Polynésie Française et en Micronesie (Guam). Doctoral thesis, Université

Pierre et Marie Curie, Paris 6. [microfilm TDM 12, 1984, ORSTOM, Paris].

Odinetz, O., 1984. Révision des *Trapezia* du groupe *cymodoce-ferruginea* (Crustacea, Decapoda, Brachyura), avec des notes complémentaires concernant *T. serenei* Odinetz, 1983, et *T. punctimanus* Odinetz, 1983. Bulletin du Muséum national d'Histoire naturelle, Sér. 4, 6(A2): 431-452.

酒井勝司，2003. 日本産蟹類の標準和名．タクサ（15）: 13-30.

Sakai, T., 1976. Crabs of Japan and the Adjacent Seas. Kodansha, Tokyo [In 3 volumes: (1)English text, (2)plates, (3)Japanese text]. (酒井恒，日本産蟹類，講談社)

Smith, S. I., 1869. Notes on new or little known species of American cancroid Crustacea. Proceedings of the Boston Society of Natural History, 12: 274-289.

武田正倫，1975. 短尾亜目（カニ類）．"学研中高生図鑑 水生動物"，内海冨士夫（監修），学研，東京，120-149, 187-331.

武田正倫，1994. ヤドカリ・カニ類．"山渓フィールドブックス9 サンゴ礁の生きもの"，奥谷喬司（編著），山と渓谷社，東京，191-218.

要　約

沖縄近海に設置されていた表層浮魚礁（パヤオ）に付着するサンゴの群集調査及び，サンゴガニ類の調査を行った．サンゴの群集調査の結果，出現した属のうち99.9%をハナヤサイサンゴ属が占めた．サンゴガニ類では，本邦初記録となるアカモンサンゴガニ（新称）を含む，サンゴガニ属9種（アミメサンゴガニモドキ，オオアカホシサンゴガニ，アミメサンゴガニ，セレンサンゴガニ，カストロサンゴガニ，クロサンゴガニ，アラメサンゴガニ，スミスサンゴガニ，アカモンサンゴガニ）の出現を確認した．

(2013年2月26日受理)